

御氏子として八幡太郎と稱す、當社の神紋を摸して、鞆紋を御旗の紋とし給ふ、
 御次男義綱は、賀茂社の御烏帽子子に擬へ、賀茂の次郎と稱し、ひとつ葵を、旗の紋とし給ふ、
 御三男義光をば、三井寺の新羅明神の烏帽子子に擬へ、新羅三郎と云、彼神衣の紋を以て、割菱を
 紋とし給ふ、

義家の御裔新田家、大中黒の御紋は、根本幕なり、鞆繪は御家の秘紋として、徳川家へ傳へ玉ひし、
 親氏公、三州加茂郡入御の後、勢盛んに御子數多生れさせ給ひし、郡名により加茂の朝臣と稱し、
 御家の鞆繪の御紋を、葵に書なし給ひて、御一流の御旗幕に付させ給ふ、是今の葵鞆繪の御紋な
 りと云々、丸は大權現御末年の時より付させ給ふよし、葵鞆繪如此、○圖 共秘説也、努々不許他見
 他聞者也、

〔明良洪範七〕天正十三年二月九日、由良信濃守ガ嫡男成繁ハ秀吉公ノ臣也、○中 略由良家紋三葉葵
 ナル故、登城ノ諸士、神君○徳川家康ノ御公達ト思ヒ、皆下馬シテ通リシト也、○中 略抑此三葉葵ノ御紋
 ニ諸説有リ、新田左中將義貞朝臣已來、三葉葵ノ紋也シニヤ、義貞ノ兜ニ三葉葵ノ紋付テ有リ、今
 ニ由良信州ノ家ニ傳來シテ有リト、横瀬采女云リ、

〔藩翰譜四上〕忠次が祖父縫殿助正忠、最初に御方に組みして先陣し、牧野兄弟、既に討たれて、吉田
 の城に向ひ玉ふに、正忠、城の東門を攻め破て城を落す、爰よりまた田原の城に向ひ玉ふには、正
 忠おのが伊奈の城に迎へまゐらせ、御酒奉て賀しまゐらす、

家に傳ふる所は、此時御肴を進むとて、池なる水葵の葉に盛りてまゐらせしに、次郎三郎殿、○徳川家康
父清康 祖 御覽有て、立葵は正忠の家紋なり、此度の戦に、正忠最初御方に参りて勝軍しつ、吉例
 なり、賜らんと仰ありて、これより御家紋とはなされたり、されば岡崎隨念寺に、自讃し玉ひし
 御畫像に、立葵の紋を畫が、れき、今にありと申なり、また徳川殿、○家康の御時、高力攝津守忠房